

## 東北応援ツアーレポート

匿名希望

参加コース：C 福島県相馬コース

東日本大震災の被災地に行き、甚大な被害をもたらした地震を自分の目で知りたいと思い、東北応援ツアーに参加しました。相馬港沿岸地域には不自然に一面の更地の箇所があり、何故この場所がこのような状態なのかを考えるとぞっとしました。津波の脅威を目の当たりにし、言葉が出ませんでした。また、被災された方から津波が来た際に、家に貴重品を取りに帰ったことで、津波から逃げ切れなかった方がいるという話を聞き、とても考えさせられました。命より大事なものは他にはないと頭ではわかっている、自分が実際にそのような状況に遭遇した際に、果たして自分はどのような行動をとるのか。家族や親しい友人が逃げ遅れているかもしれないという場合、尚更難しい質問です。関西でもいつこのような大きな地震が起きるかわからない状況です。家族と地震が起きた際の、避難場所や方法などを話し合っておく重要性を感じました。このように今回の東北応援ツアーを通して、被災地を直接見ることにより、メディアでは伝えきれない被害の大きさを感じ、また、被災者の話を聞くことにより、地震について考える機会をいただきました。

私は、今回東北応援ツアーに参加するまで、被災地の役に立ちたいと思っていても、ボランティアに参加するという術しか思いつかず、またボランティアをしようと言っても、どのようにすればよいかわからず、行動に移せていませんでした。しかし、今回のツアーのように、現地に行き、福島産の商品を購入するというのも一つの貢献になると知りました。私はツアーの後、延泊し会津若松を訪問しました。今年は会津若松を舞台とした大河ドラマを放送していたこともあり、会津はとても盛り上がっていました。会津城は立派で素晴らしかったです。メディアは、福島については原発事故の放射能について頻繁に報道しており、視聴者に対して福島について潜在的にマイナスなイメージばかり植えつけています。訪問したりんご農家の方が、「福島の商品については現在ちゃんと検査がなされているので、他の都道府県の検査をしていない商品より安心だ」と仰っており、その通りだと思いました。福島の人々にとって、風評被害が深刻な問題となっていますが、まず「被災地を訪れること、被災地を知ること」が被災地にとって自分に何ができるのかを考えるよりも、一番早く効果的な貢献手段だと思います。今後は、福島で感じたことを多くの人に伝えることが私のできる貢献だと考えています。

今回初めて校友会の行事に参加しました。同じ立命館大学で学んだ方々が様々な分野で活躍されていることを知り、いい刺激を受けました。今後もこのような横のつながりを大切にできればと思います。ありがとうございました。